

# 令和7年度 都市間交流(金沢市)報告書



金沢市議会との意見交換の様子

令和7年12月22日(月)・23日(火)

# 都市間交流概要

## 1 視察日程

令和7年12月22日(月)・23日(火)

## 2 視察行程

日にち	行程
1日目 12/22 月	・ 金沢卯辰山工芸工房 視察 ・ 金沢市役所・市議会 意見交換会 議場・委員会室見学
2日目 12/23 火	・ 金沢未来のまち創造館 視察 ・ 近江町市場 訪問 ・ ひがし茶屋街 視察

## 3 目的及び視察先

### (1) 友好交流協定の実質的深化と行政課題解決に資する政策の収集

(視察先:金沢市議会及び金沢市関係部局)

金沢市議会及び関係部局との防災についての意見交換を通じ、本協定に基づく双方の協力関係を一層強化するとともに、文京区と共通する行政課題に対する金沢市の取組を深く掘り下げ、今後の取組に生かせる具体的な政策を探る。

#### 視察及び意見交換内容

始めに、金沢市の中谷危機管理課長から、能登半島地震の対応とそれを踏まえた対策をテーマに、金沢市の被害状況や能登被災者受入支援の状況、復旧に向けた取組及び金沢市地域防災計画(第1次)の改定方針を伺いました。

能登半島地震の災害教訓や課題検証会議の意見を金沢市地域防災計画に反映し、主に以下3点を改定されたとのことでした。

- ① 能登半島地震を教訓とした避難所運営の改善
  - ・ 避難所開設の遅れをなくすため、自動解除キーボックスを導入(震度5弱以上でキーボックスが自動解除。市内100か所)
  - ・ 拠点避難所に福祉用品を配備(高齢者・障害者向けトイレ、車椅子)
- ② 大規模災害を見据えた対応体制の強化

- ・ 衛星通信機器の導入
- ・ 観光地での帰宅困難者対応マニュアルを策定し、関係機関と連携を強化
- ・ 断水時の対応体制の強化(トイレトラックの配備、マンホールトイレの整備推進)

### ③ 市民への情報発信力強化、防災啓発の充実

- ・ 情報発信の入力作業を一元化し、多様なツールで避難情報を発信
- ・ VR 技術を活用した体験型の防災啓発の推進
- ・ 企業防災士の育成・支援、社内備蓄の推進

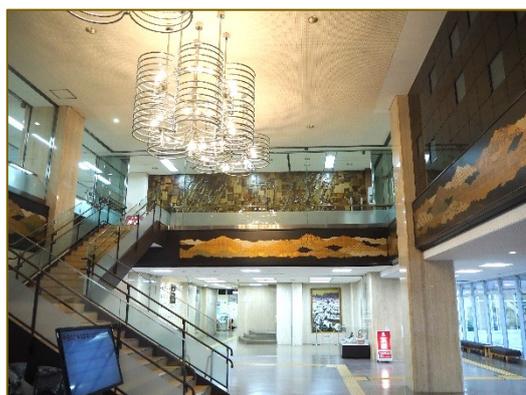
その後、金沢市地域防災計画(第2次)の改定の検討ポイントなどを伺いました。

また、文京区議会から災害時のトイレ問題について、また、能登半島地震発災時の金沢市議会の対応を伺うなど、金沢市議会と有意義な意見交換を行うことができました。

最後に、金沢市の前議長から、金沢市の伝統野菜である加賀野菜を文京区の小中学校の給食で使ってほしいとご提案がありました。令和4年には五郎島金時を使って交流をした実績もあるため、引き続き交流を深めていきたいとお話をいただきました。



金沢市役所 外観



金沢市役所 内部



金沢市議会議場 親子傍聴席があります



金沢市議会 議場

## (2) 歴史・伝統文化を活かした地域活性化モデルの探求

(視察先:ひがし茶屋街及び金沢卯辰山工芸工房)

伝統的建造物群保存地区の持続的な維持管理、伝統工芸の継承と産業振興など、文化と経済の好循環を生み出す金沢市の戦略を学び、文京区の歴史・文化資源をどう地域活性化につなげるべきか、応用可能な要素を見出す。

### 視察内容:ひがし茶屋街

地元のボランティアガイド“まいどさん”にガイドを依頼し、2班に分かれて、街を視察しました。街並みはもちろん、茶屋建築の表構えの木格子や伝統工芸が栄えた背景など、ボランティアの方の丁寧かつ分かりやすいご説明で、200年前のひがし茶屋街の様子が目に見えるようでした。



ひがし茶屋街



ひがし茶屋街



まいどさんの説明を受けながら



眺望点:ひがし茶屋街は2か所指定がある。

憩いとやすらぎをもたらす場所として多くの市民に親しまれ、かつ、「山並みへの眺め」、「見下ろしの眺め」、「通りの眺め」、「見晴らしの眺め」を享受することのできる地点を「眺望点」として指定しており、現在15の眺望点を指定されている。

## 視察内容:金沢卯辰山工芸工房

金沢卯辰山工芸工房の川本館長から、金沢の工芸のルーツである加賀藩御細工所を始めとした加賀藩の文化事業について、また、金沢卯辰山工芸工房の施設や活動内容、時代の変化に対応する質の高い工芸家の育成、姉妹都市や創造都市のアーティストとの相互交流など、金沢の工芸技術を未来へ継承するための取組内容を伺いました。

その後、陶芸や漆芸などの工房や、資料室などの施設を見学させていただきました。

### 金沢卯辰山工芸工房

Kanazawa Utatsuyama Kogei Kobo

市制130周年記念事業

金沢卯辰山工芸工房は、金沢の伝統工芸の振興に大きな役割を果たした加賀藩御細工所の精神を活かし、優れた伝統工芸の継承発展と文化振興を図るため、金沢市が市制100周年記念事業として、平成元年11月1日に設立しました。

この施設は、陶芸・漆芸・染・金工・ガラスの各工房が一体となっており、技術研修者が高度な工芸技術を学ぶとともに、自己研鑽と自由な創作活動を通じ優れた造形感覚を養うなど、工芸振興に貢献しうる人材を育成してきました。

このほど、世界に誇る工芸の担い手を「育てる」、世界と積極的に「つながる」、世界に本物を「発信する」を新たな基本理念に、市政130周年記念事業としてリニューアルしたものであり、研修者のさらなる技術向上を図り、クラフト創造都市・金沢を発信していきます。

令和元年11月1日 金沢市長 山野 貞貴

Kanazawa Utatsuyama Kogei Kobo was founded on November 1, 1989 in commemoration of the 100th anniversary of the founding of Kanazawa City. It aims to preserve and develop the outstanding traditional Kogei (crafts) of Kanazawa, and to promote cultural activities, while retaining the spirit of the Oka-no-oka (White Pine) spirit.

The Kobo consists of studios (dojoko), dyeing, metalwork, etc. encouraged to acquire advanced their artistic sense through individual creative activities. We have cultivated trainees so they will be able to cope of Kogei.

To mark the 130th anniversary of the Kobo was renewed in accordance principles: training of Kogei artists at the international level, connecting proactively, and diffusing authentic world. We will endeavor to further skills and disseminate information UNESCO Creative City of Crafts.

### 金沢卯辰山工芸工房の活動内容

Philosophy and Activities

当工芸工房は、世界に誇る工芸を担う人づくりの拠点として、時代の変化に対応しうる質の高い工芸家の育成に注力するとともに、金沢の工芸技術を未来へ継承し本物を発信する施設として運営しています。

This institution aims to be a base that produces world-class craftspeople who play an active role in craft making while responding to the changing times. We also hand down Kanazawa's craft skills to future generations and disseminate authentic crafts.

金沢卯辰山工芸工房が掲げる3つの基本テーマ

Kanazawa Utatsuyama Kogei Kobo's Three Principles

**世界に誇る工芸の担い手を「育てる」**

Training of trainees who will work actively at the international level.

創作環境を充実させ、世界に誇る工芸を担う人づくりの確固たる拠点へ

自由な造形活動を通じて、高度な工芸技術と優れた造形感覚を養い、工芸振興に寄与する人材を育成します。

We enhance our creative environment to train world-class craftspeople.

We produce craftspeople who contribute to the promotion of crafts while acquiring highest skills and outstanding creative senses through activities that are alive for artistic freedom.

**世界と積極的に「つながる」**

Connecting with the world proactively

姉妹都市や創造都市のネットワークを活かし世界とつながる施設へ

姉妹都市や創造都市で活躍する作家を受け入れ、世界的な工芸の感性と技術を高めるとともに、研修者の活躍の場を広げます。

We interact with the world's communities through the networks of sister cities and creative cities.

We accept artists from sister cities and creative cities to enhance the sensibilities and techniques of world-class crafts, and provide trainees with opportunities to improve their skills.

**世界に本物を「発信する」**

Disseminating authentic crafts all over the world

本物の工芸を世界に発信し、優れた人材や技術、最先端の素材や情報を呼び込む施設へ

御細工所の精神を今に伝えるとともに、新しい技術と伝統の技術の融合を卯辰山から発信します

We disseminate authentic crafts to the world while inviting outstanding artists and bringing in skills, cutting-edge materials and information.

We integrate new technology with traditional skills, while retaining the spirit of Oka-no-oka (White Pine) spirit through our handcraft workshop.

陶芸工房  
Ceramics Studio

漆芸工房  
Lacquer & metal Work Studio

染工房  
Dyeing Studio

金工工房  
Metal Studio

ガラス工房  
Glass Studio



工房



資料室



資料室

### (3) 未来志向の都市戦略と産学官連携によるイノベーション創出の検証

(視察先:金沢未来のまち創造館)

産学官連携を基軸とした新たな産業創出、企業誘致、そして将来を見据えたまちづくりの具体的なプロセスを学び、文京区が持つ大学資源や地域産業の活性化、都市の魅力向上戦略を検討する上でのヒントを得る。

#### 視察内容

金沢市経済局産業経済課担当課長兼金沢未来のまち創造館の山田館長補佐から、小学校を改修・一部増築されて整備された施設の概要や「スタートアップ・新ビジネス創出」、「子供の独創力育成」、「食の価値創造」を3つの柱にした事業活動について伺いました。

その後、調理室や創作・工作スタジオやシェアオフィスを見学させていただきました。



建物外観



施設内部



創作・工作スタジオ



創作・工作スタジオ



調理室



食文化に関する展示

## 4 参加者

議長	市村 やすとし
議会運営委員会委員長	名取 顕一
総務区民委員会委員長	白石 英行
厚生委員会委員長	のぐち けんたろう
建設委員会委員長	松平 雄一郎
文教委員会委員長	上田 ゆきこ
災害対策調査特別委員会委員長	宮本 伸一
子ども・子育て支援調査 特別委員会委員長	田中 としかね
自由民主党 幹事長	山田 ひろこ
公明党 幹事長	田中 香澄
AGORA 幹事長	浅田 保雄
自治制度・地域振興調査 特別委員会副委員長 兼	
区民が主役 幹事長	依田 翼
随 行 佐久間 康一	(区議会事務局長)
随 行 下笠 由美子	(区議会事務局調整担当主査)
随 行 糸日谷 友	(区議会事務局議事調査担当主査)



金沢卯辰山工芸工房にて

## 視察報告

### 文京区議会・金沢市議会 都市間交流事業の視察を終えて

議長 市村 やすとし

令和7年12月22日・23日の2日間で金沢市の視察を行った。

初めに金沢卯辰山工芸工房を訪問し、金沢の伝統工芸の継承と発展に取り組みながら、伝統技術を守り、「育てる」、「つながる」、「発信する」を掲げ活動しているとの説明を受けた後、現場を視察した。恵まれた環境の中でも時間をかけて人材を育成するにはかなりの労力と情熱が必要だが、積み上げてきたノウハウがしっかりと機能していることを確認した。

金沢市役所に移動し、市議会議員の皆様と防災について意見交換会を行った。始めに中谷危機管理課長より能登半島地震の対応と取組について、また、発災から2年が経過した現状と課題についての説明を受けた。発災時の災害への備えと迅速な対応体制の構築やトイレ問題等については十分な考察をし、本区においても万全の態勢で臨むべきである。

2日目は金沢未来のまち創造館を視察し、「スタートアップ・新ビジネス創出」、「子供の独創力育成」、「食の価値創造」の3つを柱に事業活動を展開し、金沢市における新たな産業と未来で活躍する人材の輩出を図っている。また、旧小学校の4階建て校舎を改修・一部増築し整備された校舎はそれぞれの持ち味を生かしつつ、最先端の設備と地域に愛された学び舎の面影が共存する素晴らしい空間となっている。旧校舎をこのように再利用する考え方は新たな視点での指標になると感じた。



金沢市議会議場にて

## 金沢市との交流を終えて

議会運営委員会 委員長 名取 顕一

令和7年12月に友好交流都市協定を結んでいる金沢市を訪問した。

議長、会派、委員会では、以前より交流させていただいていたが、今回のような形で訪問するのは、初のことである。

初めに伝統工芸を保存、継承する「金沢卯辰山工芸工房」を見させていただき、後継者育成を含み、市が伝統工芸を応援している姿勢がはっきりと実感できた。

その後、市議会議員との意見交換会に参加し、「能登半島地震の対応とそれを踏まえた対策について」の金沢市の対応と今後の大規模災害における対応体制の強化等について説明を受けた後、意見交換を行った。それぞれの地域性は異なっているが、大規模災害における対応は同じ思いであることを確認した。

その後の懇親会では、金沢市の議員さんとの会話の中から、たくさんの気づきやヒント、それぞれの人となり、分かることが出来、大変有意義な時間だった。

次の日に日程があり、最後まで一緒に動けなかったことは残念であるが、これからも金沢市だけでなく、文京区が友好都市を結んでいる都市との議員間交流を進めることで、見えてくるものがあると実感した。今後もこのような交流が増えることを期待している。



金沢市役所前にて

## 友好都市金沢市との交流について

総務区民委員会 委員長 白石 英行

文京区と金沢市の協定に基づき、相互理解を深め、協力体制、協働体制を深化することが議会に求められている事を念頭に、区議会として訪問をさせていただき、金沢市議会と意見交換を行えたことは、最も有意義だったと御礼申し上げます。



2024年1月に発生した能登半島地震の対応について、自民党文京区議会でも同年3月に現地入りし被災地の対応を視察しましたが、その後の行政対応についても理解をさせていただきました。東日本大震災を経験した本区の対応では、新たに災害時の計画対応を図っているものの、被災地からの復興は長い年月を必要とする事から、市民を支える多面的な支援を金沢市が担っている事など、本区としても継続的な支援を行うと共に、緊急時の相互協力に力を尽くす必要があることが確認できました。

また、金沢市議会が会長を務める「全国伝統工芸品振興市議会協議会」の理事を昨年度私が務めさせていただき、地域の伝統が繰り広げる日本文化の必然性、首都東京が果たすべき重要性を共有させていただきました。今回、卯辰山工芸工房を視察させていただき、伝統工芸の継承と産業振興を支えている金沢市の姿を江戸文化の文京区として、どのように吸収し発展させていくのか今後研究して参りたいと思います。



金沢卯辰山工芸工房にて

## 友好交流都市訪問 金沢視察報告

### 厚生委員会 委員長 のぐち けんたろう

今回の視察は、金沢市における令和7年1月に発災した能登半島地震の防災行政運営、地域活性化及び都市戦略に関する取組を調査研究し、その成果を本区の防災政策立案及び議会活動に反映させることを目的として訪問した。

金沢市議会及び金沢市関係部局においては、防災における行政課題の把握から政策形成、実施に至るまでのプロセスや、議会と行政が連携して課題解決に取り組む手法について超党派の金沢市議会議員と大会議室で意見交換会を行い、防災施策や運用上の工夫について理解を深めた。



また、ひがし茶屋街及び金沢卯辰山工芸工房を視察し、歴史的景観や伝統文化を保全しつつ、観光振興や産業振興につなげる金沢市の具体的な取組を確認した。これにより、文化資源を活用した地域活性化の持続可能なモデルについて知見を得た。

さらに、金沢未来のまち創造館において、産学官連携によるイノベーション創出や未来志向の都市戦略の実践事例を調査し、自治体が主体となった社会課題解決の仕組みの有効性について検証した。

本視察で得られた知見を、今後の文京区議会活動及び自身の政策提言に活用することとした。

## 都市間交流を終えて

### 建設委員会 委員長 松平 雄一郎

能登半島地震発災後、2回目となる金沢市への視察訪問。友好都市である金沢市議会議員の皆様と、更なる交流を深め、防災・まちづくり・文化振興などについて、互いの自治体の最新状況に関する情報交換を行うことができた。

文京区と金沢市は、自治体としての規模や立地は異なるものの、江戸時代以降の歴史や文化が色濃く残っている点において、多くの共通点がある。今回訪問した金沢卯辰山工芸工房や金沢未来のまち創造館の視察を通して、金沢の魅力である工芸や食の文化の伝統を絶やすことなく、現代の技術者や研修生、そして子どもたちへ確実に継



承していこうとする、自治体としての明確な方針を感じることができた。

さらに、単に技術を継承するだけではなく、新しい技術や創造的な視点を排除せず、時代に合わせた変化や進化を積極的に取り入れていく姿勢や、伝統文化を観光客だけでなく、世界と繋がり、世界へ発信していこうとする大きな視点を持っている点において、金沢市民の誇りと自信を強く感じ、深い感銘を受けた。

こうした姿勢や視点は、本区においては十分に持ち得ていないビジョンであり、区民のシビックプライドを高め、育てていく上でも、多くの学ぶべき点があると感じた。視察を快く受け入れてくださった金沢市議会議員、市役所職員の皆様に、心から感謝を申し上げたい。ありがとうございました。

## 金沢市視察を通じた学びと今後の交流の展望について

文教委員会 委員長 上田 ゆきこ

文京区と金沢市は、江戸時代に加賀藩の上屋敷・中屋敷が文京区内に置かれていたことに加え、金沢市出身の文豪である徳田秋聲、泉鏡花、室生犀星が文京区内に居を構えていたこと、さらに加賀宝生のルーツである宝生流の能楽堂が区内に所在するなど、深い関係を有している。

金沢卯辰山工芸工房は、金沢市制100周年記念事業として設立された工芸人材育成の中核施設であり、加賀藩御細工所の精神を現代に継承する研究・育成機関である。令和元年の改修を経て、「育てる、つながる、発信する」を理念に掲げ、質の高い工芸家育成と国際的な発信機能の強化が図られている。インバウンド需要の高まりを背景に「発信」を重視する姿勢は合理的である一方、設立当初の理念であった「参加する」は、より公共性を重視した理念であったとも考えられる。茶道・華道・書道を取り入れた兼芸教育や、「銀座の金沢」等との連携により、育成から発信までを一体的に行う体制からは、工芸を文化・産業・都市ブランド政策の中核に据える金沢市の戦略性がうかがえる。



災害対策については、令和6年1月の能登半島地震において、金沢市は被災地支援の拠点としての役割を担うとともに、市域内でも液状化やインフラ被害、避難所運営への対応にあたった。「被災自治体であり、同時に支援自治体でもある」という中核市の立場に立った防災対応は、初動から支援までを見据えた実践的なものであった。とりわけ、自動開錠キーボックスは、区立学校が避難所の中心となる文京区において、早急に導入を検討すべきである。

金沢未来のまち創造館は、「スタートアップ・新ビジネス創出」、「子どもの独創力育成」、「食の

価値創造」を三本柱に、新産業の創出と次世代人材の育成を目的とする官民連携型の価値創造拠点である。旧野町小学校校舎を改修・一部増築し、木材を多用した空間構成と学校の面影を残す設計が特徴的である。なお、「加賀料理」は令和7年12月に国の無形文化財に登録され、和食分野では「京料理」に続く2例目となっている。起業支援、教育、食文化が同一施設内で連携する構造は、公共施設を「価値創造型拠点」へと転換する上で参考となる。

また、金沢観光ボランティアガイドの会「まいどさん」は平成6年設立、現在300人を超える市民ボランティアが登録する観光ガイド団体である(ガイド料は無料、利用者は実費のみ負担)。金沢市観光協会内に事務局を置き、市と連携した運営体制が構築されている。案内は歴史的背景や街並み形成の経緯、生活文化と観光の関係まで丁寧に伝えるもので、回遊の適正化やマナー啓発にも寄与している。市民が学びながら地域の魅力を語る仕組みは、生涯学習や社会参加の場としての意義も大きい。「持続可能な観光振興計画 2021」においてもガイド育成は重要施策とされており、「まいどさん」はその中核を担っている。観光ボランティアガイドは、低コストで高付加価値を生み出す人的インフラであり、環境や地域づくりの観点からも重要である。

以上の視察を通じ、両都市の歴史的・文化的なつながりを改めて確認するとともに、今後の政策展開に資する知見を得ることができた。友好交流都市協定に基づく議会間交流を、今後も継続していきたい。

## 金沢市への視察を終えて

災害対策調査特別委員会 委員長 宮本 伸一

卯辰山工芸工房を視察。

金沢工芸の源流である「加賀藩御細工所」の果たした機能と精神を受け継ぎ、担い手を育て、世界につながり、発信することに成功している。こうした伝統工芸の継承により独自文化の土壌が築かれていることを確認した。

「ひがし茶屋街」を視察。ここは、伝統的建造物群保存地区の持続的な維持管理により文化の継承と観光振興に寄与している。東京都とは違い、戦火等による焼失を免れたことは大変に貴重な財産であると思った。

上記2つの視察を通して、地域独自の歴史的資産をしっかりと継承・活用することにより、地域の文化発展と産業振興等につなげることの成功事例を学ぶことができた。文京区における取組の参考になった。



「能登半島地震の対応とそれを踏まえた対策」について金沢市議会議員35名の方々と意見交換を行った。災害現場での様々な教訓を受けて、今年度、地域防災計画の見直しを図っているとのこと。避難所開設の遅れをなくすために「自動解除キーボックス」を導入すること、トイレトラックを配備して平時からも活用すること、拠点避難所を中心として指定避難場所への支援物資等の供給体制の見直しなど、多くのポイントについて参考になる取組を学んだ。区の災害対策に活かしてまいりたい。

## 「友好交流都市協定」をどう再定義すべきか

子ども・子育て支援調査特別委員会 委員長 田中 としかね

金沢市の取組は、文京区が今後の都市政策を構想するうえで、より踏み込んだ方向性を示してくれているように思う。

まず、「歴史・伝統文化を活かした地域活性化」について。金沢市はひがし茶屋街や卯辰山工芸工房に見られるように、歴史的資源を単なる保存対象ではなく、「人を育て、仕事を生み、都市の物語を更新する基盤」として位置付けている。景観保全、伝統技術の継承、人材育成、観光・消費を一体で設計することで、文化を地域経済と日常生活に根付かせているのである。文京区においても、寺社や近代文学、学術文化を、教育・観光・創造産業と結び付ける総合的な仕組みづくりが求められるだろう。



次に「友好交流協定の実質的深化」について。金沢市が文化交流にとどまらず、防災や人材育成、公共施設運営などの行政課題を共有し、他都市との相互学習を重視している点が注目される。能登半島地震への対応と検証を通じて得られた知見を開かれた形で共有する姿勢は、友好都市関係を政策の質を高める装置へと昇華させている。文京区にとっても、金沢との交流を実務・政策レベルで結び付けることで、自治体運営の高度化につながるだろう。

第三に「未来志向の都市戦略と産官学連携」について。金沢未来のまち創造館に象徴されるように、旧公共施設を起点として、起業、子どもの創造教育、食文化研究を有機的に結び、産官学民の協働によるイノベーションを生み出している点が示唆的である。大学と研究機関が集積する文京区においても、文化と知を媒介にした共創拠点を育てることが、持続的な都市価値の創出につながるだろう。

## 金沢交流都市の視察を終えて

自由民主党 幹事長 山田 ひろこ

金沢市の「未来のまち創造館」を視察し、地域の文化と最先端技術を融合させた人材育成の在り方に大きな気付きを得た。

本施設は、金沢の二大文化である「食」と「工芸」を軸に、AI などの最先端分野を掛け合わせ、新たな価値を創出する拠点として、旧校舎を改修、増築して運営されている。小学校4年生以上の子どもが工芸や創作活動に参加できる環境が整えられている一方、スタートアップを志す大人や、調理人を目指す人材に対しても、設備の提供や食のコンテスト、試作品の販売機会などが用意され、世代や立場を超えた学びと挑戦が循環している点が特徴的であった。



地域の特色ある文化や知を単に保存するのではなく、未来へと発展させるために最先端技術を柔軟に取り入れている姿勢は、他自治体にとっても大いに参考となる。特に「食」は金沢固有の文化にとどまらず、和食としてユネスコの無形文化遺産にも登録されており、本来は国を挙げて継承・発展させていくべき分野である。その意味で、本施設の取り組みは、地域発でありながら、和食文化の未来に寄与する重要な実践であり、国民の一人として大きな意義を感じた。

文京区においても、教育資源や文化資産、大学・研究機関が集積する強みを生かし、子どもの創造性育成と大人の学び直し、起業支援を横断的につなぐ拠点づくりは十分に可能である。特に、地域の特色ある文化や知を最先端技術と結び付け、実践と交流を通じて人材を育てる視点は、今後のまちづくりに不可欠であろう。金沢の取組は、文京区が「教育と文化のまち」として次の時代を切り拓くための、重要な参考事例であった。



金沢未来のまち創造館 建物前にて

# 文京区議会・金沢市議会 都市間交流事業 視察報告

公明党 幹事長 田中 香澄

2025年12月22日及び23日、文京区議会と金沢市議会との間で都市間交流事業が実施され、参加させていただきました。金沢卯辰山工芸工房や金沢未来のまち創造館を現地視察。貴工房は金沢市が平成元年市政100周年の事業として設置した工芸の研修機関で重要な拠点として工芸家の育成、創造活動、市民参加型の体験や展示など、多彩な魅力を放っていました。



金沢未来のまち創造館は、金沢市が管理運営を行い「スタートアップ・新ビジネス創出」、「子供の独創力育成」、「食の価値創造」を3つの柱に事業活動を展開。新たな産業の創出と未来で活躍する人材を輩出していました。

とりわけ「能登半島地震の対応とそれを踏まえた対策について」の詳細な説明と有意義な意見交換は本区への防災対策を深化させるヒントが沢山ありました。令和6年元旦夕刻に起きたマグニチュード7.6の大地震を経験された金沢市の教訓を今後も、継続的に共有させていただき、本区の防災対策に応用させていただきたいと強く思いました。同時に、貴市との都市間交流は、あらゆる地域課題や行政運営全般についても互いに情報交換し合い、知見を深めることを切に望むものであります。

今後の文京区議会の施策推進に生かすとともに、金沢市議会との友好関係を今後も一層深めて参りたいと改めて感じたこの度の視察でした。関係者の皆様に改めて感謝申し上げます。

## 都市間交流を終えて

AGORA 幹事長 浅田 保雄

金沢市の食文化を文京区で学び、更に加賀野菜を学校給食に取り入れる取組が課題だと感じました。自治体間交流と食育を深める上で大きな意義があります。金沢の食文化については、治部煮やかぶら寿司、加賀野菜を使った伝統料理を題材にした授業やワークショップを行うことで、子どもたちが食の歴史や地域の特色を学ぶ機会が生まれます。



また、近江町市場や金沢の職人文化を紹介する映像教材の活用、金沢市の学校や生産者とのオンライン交流、共同学習プロジェクトな

ど、自治体間連携による学びの深化も期待できます。さらに、文京区内で「金沢フェア」や試食会を開催すれば、保護者や地域住民も巻き込んだ食文化理解の場が広がります。

そして、加賀野菜を学校給食に取り入れるには、生産者やJAとの連携を通じて安定した仕入れルートを確保することが重要になります。五郎島金時、加賀れんこん、金時草などの加賀野菜は栄養価が高く、給食メニューとしても活用しやすいと聞きました。子どもが食べやすい調理法を工夫し、金沢の伝統料理と組み合わせた「加賀野菜給食」を実施することで、食文化と健康の両面から教育効果が高まります。

また、加賀野菜の特徴や歴史を学ぶ授業、生産者によるオンライン講話、実物に触れる体験型学習などを通じて、食材への理解を深める食育活動も展開できます。これらを進めるにも、文京区と金沢市の自治体連携を強めていきたいと感じました。

## 令和7年度都市間交流(金沢市)、報告文

自治制度・地域振興調査特別委員会 副委員長 兼

区民が主役 幹事長 依田 翼

今回の金沢市との都市間交流では2つの施設と風致地区にお邪魔させてもらった。また市役所では防災のレクも受けた。

金沢卯辰山工芸工房では、江戸時代に藩の戦略として振興した工芸の産業を形を変えながら現代に引き継いでいこうという金沢市の強い意志を感じた。新たな芸術家、職人の育成が必ずしも直接的に金沢市に還元されるわけではないが、育成に力を貸すことがこの分野における金沢市の地位を高めていくのだと思う。ただ、東京だと一自治体でこうした事業を担っても人や産業を集めるには課題があるなという印象も持った。



市役所で聞いた能登半島地震を受けての防災の強化の一連のメニューの中では、一定の揺れを感知したら自動で開くキーボックスを導入し避難所の開設を早める取組が目をつけた。震度5弱で開くのは敏感すぎるようにも思うが、鍵の預け先という文京区でも共通の課題の解決策の1つになりうると感じた。

金沢未来のまち創造館は前向きで素晴らしい施設だった。廃校を活用し、食の研究・開発や子供たちの想像力を伸ばす居場所が構築されていた。伸ばしたい分野を定めて公共施設を作るのは合意形成が難題だ。文京区では育成すべき産業も見つけづらいところではあるが、一つの実験として大いに参考になった。